


<p>松山観光ボランティアガイドの会</p>  <p>おいでんか通信</p>	事務局 松山市大街道3丁目2-46  TEL 089-935-5711  ホームページ  <a href="http://Matsuyama-guide">http://Matsuyama-guide</a>	第53号  2020.10.15  発行責任者 大西修史  編集 広報事業部  部長 都合憲一
---	---	---

## ガイド活動再開

会長 大西 修史

3月初めから休止していたガイド活動を10月から始めます。

アンケート調査結果から50名ほど（会員数の1/3）のガイドが「当分休止」となっています。

10月からは「GoToトラベル」で割引対象に新規感染者の多い東京発着旅行が追加されることを思えば当然です。

「ボランティア命」と活動をしたい気持ちと高齢であるため、感染したら重症化か・・・と思う気持ちのせめぎ合いの結論としてガイド活動をするという人もいます。

それぞれの思いの結果として、ガイド活動人数は従来どおりとは言えませんが、なんとか再開できます。

再開に当たっての注意事項は9月15日付で「お知らせ」したとおりです。

くり返しになりますが、各地域（道後・松山城・まち歩き・萬翠荘）の案内実施要領に基づいてガイド活動をお願いいたします。

感染防止策の徹底のためにはできるだけのこととは実施していくつもりです。

（広報事業部より）

3月より休止していました道後地区の「湯あがり朝市」も9月27日から再開されました。

三密（密閉・密集・密接）を避ける意味では、松山城の天守閣、萬翠荘では密閉・密接になりがちですが、工夫して案内してください。

一方、国内の感染第二波が落ち着きを見せるなか、ワクチンや、治療薬の開発には2、3年かかるという学者もいて当分の間はこの状態が続くと思われますので、「うつらない、うつさない」の考えのもと、検温、手洗い、うがいの励行など自分でできることには十分配慮してください。

加えて、これからの季節、インフルエンザによる発熱も考えられますから、高齢者（65歳以上）は優先接種される予防注射を受けた上で、ガイド活動に当たってください。

お願いばかりですが、元気にコロナ禍を乗り切りましょう！



## 石手寺 仁王門

森 亮一

新型コロナでガイドもお休み。全くすることがなくなりましたね。こんな時はやはり読書しかありません。積読していた本を引っ張り出して読んでみました。

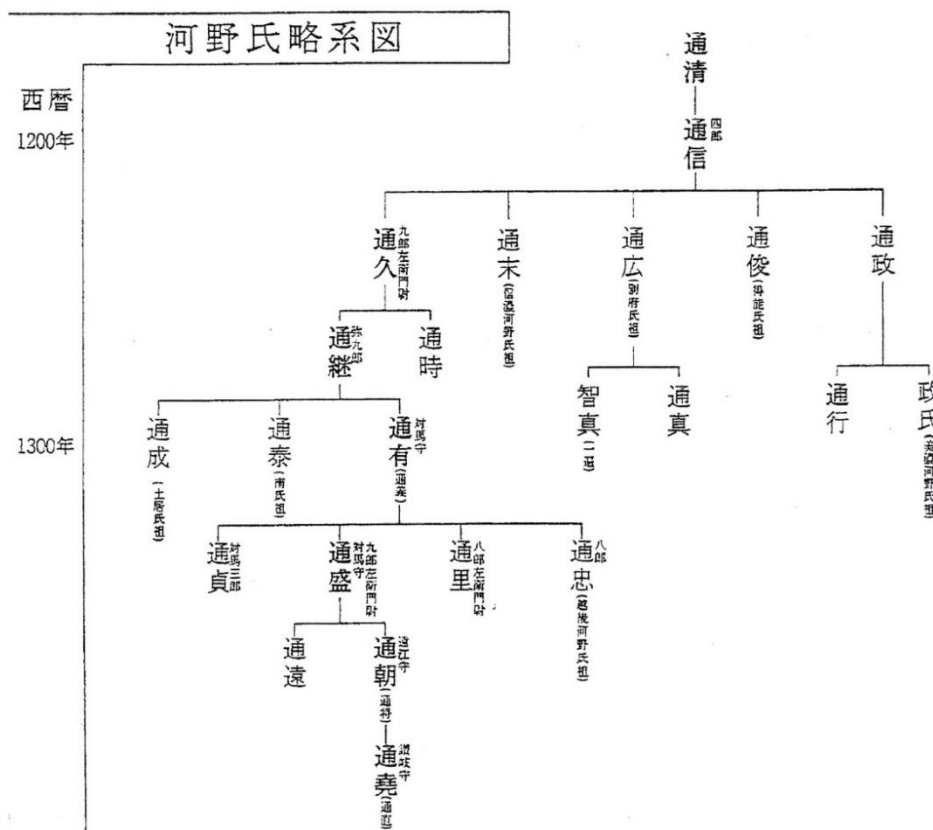
その本は、伊予史談会発行「古代・中世伊予の人と地域」。今回はその中の第3章河野通有の実像、筆者「久葉裕可(くばひろよし)」についての話です。久葉先生は新居浜市広瀬歴史資料館の学芸員をされている。河野通有については、道後公園の北隅にある「湯釜薬師」の説明の中で、

「弘安4年(1281)元寇の時に、蒙古の軍船に乗り込み、大將軍を生け捕りにしたり、防塁の前で蒙古軍と戦い、

「河野の後ろ築地」と名を馳せ、河野家再興の基礎を築いたのです。そして従兄の一遍上人に、この湯釜の宝珠に南無阿弥陀仏の六文字を刻んでもらったのです。」と説明していますね。表題の石手寺仁王門は、「伊予古蹟志」に、河野通継が文保2年(1318)建立したという記事がみられる。しかし、河野通有は1311年に亡くなっているといわれ、通継もそれ以前に亡くなっていたと思われるのでこの建築主に疑問を持っていた。

この度はそんな思いもあってこの本を読み、河野通有と通継について調べてみようと思いました。

下記の系図は湯築城資料館よりのコピーです。この系図より河野通信から通有に至る概略を説明すると、平家追討の功績で鎌倉幕府の有



力御家人となった通信は、1185年伊予の守護に匹敵する所領を獲得する。しかし1221年承久の乱で、鎌倉幕府と戦い、敗れて通信は奥州に流され、多くの所領や権限を失う。河野家は幕府方についての河野通久の系統が嫡流となっていく。

以下通久の子孫、通継・通有について、参考資料(河野通有の実像)より抜粋していく。

(一)「河野通有の実像」久葉裕可より抜粋(P101~P123)「通久は、承久の乱の勲功によって、阿波国富田荘(徳島市)地頭職を給与されたが、のち希望により伊予国内石井郷(松山市)に替地宛行された。しかし、通信が築き上げた多くの所領や権限を失ったことで、この後その回復に苦しむことになる。蒙古合戦における通有

の奮戦も、通信時代への勢力回復が大きな眼目の一つであったことは疑いない。・・・」

「『予章記』によると、承久の乱の後河野家の惣領となった通久には二人の男子がおり、長子が通時で(長福寺本では嫡子とする)、次子が通継であった。蒙古合戦に活躍する通有は、通継の長子であるが、通久から通有に至る家督継承には、複雑な惣庶間の争いがあったことが、石野弥栄氏により指摘されている。」家督継承争いの説明・・・「まず嘉禎3年(1237)当時、通久は通時を惣領と定めていた。しかし、その後通時を義絶し、宝治2年(1248)通継に讓状を与えた。その後通時の義絶は解かれたようで、建長3年(1251)から正嘉2年(1258)にかけ、鎌倉において弓始めやおう飯役(大番役?)等幕府の重要な諸行事に参加している。しかし通時は再び義絶されたものか、その後記録に登場しなくなり、替わって通継が惣領として文永4年

(1267)8月通久より石井郷別名を譲られている。その後まもなく通久は死去し、それを契機に通時が訴訟を起こしたようである。この時の幕府の裁定(文永5年(1268)7月)は、大筋で通久の讓状を認めて通継を惣領とし、通時には所領の一部を分与することで和与が成った。しかし、間もなく通時が和与に異議を唱え、再び相論を起こした。この相論に対して幕府は、文永9年(1272)12月に、文永5年の和与に準じるよう判決を下した。しかし、文永5年の和与の時に惣領と定められた通継は、この判決までの間に死去しており、代わって子の通義(通有)が惣領とされている。」

久葉先生は「通有の死」について次のように述べている。「河野通有が両使として海上警護の指揮を命じられた翌年の元亨2年(1322)4月27日「前対馬守」が肥前国神崎荘内の田地の知行について下知状を下していることからこの時までには通有の生存が確認される。そしてその翌々年、元亨4年6月9日の「ろうゑん讓状」

に「つしまのせんし(対馬前司)そんしやう(存生)の時」とあることから、この時点で通有は既に死去しているとみられる。通有の死は元亨2年4月27日から元亨4年6月9日までの間のことになる。先の『蒙古襲来絵詞』の傍書の年齢からすると、享年73ないし75である。

そして、『予陽河野家譜』や『小松邑志』に記載されている応長元年(1311)に死去したとは、「これまで見てきたところからすれば信じ難い。」としている。

即ち1318年に石手寺仁王門が建てられた時には、通継は46年前死去しており、通有はまだ生存していたことが証明された。

(二)河野通有の居城「縦淵城」についてここで通久が築いて、その後通継、通有の居城といわれる石井郷の縦淵城について述べてみたい。現在この場所は城山神社となっており、松山市教育委員会の縦淵城跡の立て札には次のように記されている。

『この城は、小野川(縦淵川)の南、高さ8m、東西47m、南北86mの丘の上にあったが、明治21年(1888)土佐街道(今の国道33号線)が作られるとき取り崩された。この時切り石垣が出てきたという。・・・』



この城は、北側に小野川と川付川の合流する縦淵(深い淵となっている所)に守られた城であったと思う。

小野川は平井の奥、小野谷から流れ出て、平井、久米官衙遺跡の傍を流れ、星ヶ岡を抜けて

天山で川付川と合流し、石手川に流れ込む。足立重信が石手川の付け替え工事をする前はこの川は土居田、余戸村、垣生を流れて今出(いまず)の浜へ流れていた。

愛媛大学名誉教授松原弘宣先生は著書『熟田津と古代伊予国』において、「熟田津」は小野川の河口、今出(いまず)の里あたりであり、斉明天皇一行は熟田津迄久米の官衙(役所)から船で下ったであろうと述べている。



熟田津の所在については種々あるが、「伊予山の辺のみち」を道後から堀江まで歩くと、都(大和)から来た人は堀江の港に着き、昔からこの道を歩いて道後の石湯に来たのだと思える道である。

小野川も久米辺りでは水量も少なく松原説に疑問を呈するが、天山で縦渕川に変身した小野川は、船を浮かべるだけの水量がある。「大宰府(九州)への旅立ちの港は、久米の官衙から天山に来て船で港まで行ったかもしれない?」と松原説に賛同するのも面白い。今出の浜の途中、近くに沓脱天満宮もあり、菅原道真も今出から大宰府に発っている。

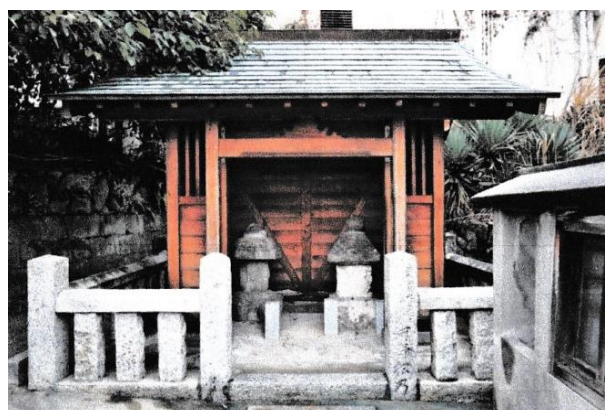
久葉先生は、幕府から河野氏の水軍力を認められ、肥前国神崎荘内小崎郷に滞在する通有に対し、海賊取締りの命令を出している。しかし、通有は動ない。幕府から督促を受ける。こ

のような状況を「海の武士団として海上勢力と深くかかわっていた通有は、微妙な立場にあった」としている。そして、最終的には忽那島の海の関所である警護役所で指揮をしている。通有は九州と瀬戸内をしょっちゅう行き来していたと思われる。

縦渕城は小野川を利用して海との連携をとれる位置にあり、当時通有は、九州の所領と縦渕城とをこの川をとおして行き来していたと想像される。

(三) 義安寺の河野通時の墓先の項で述べたように通久の嫡子であった通時は再三幕府に対し訴訟を起こしている。通時は父通久に再三義絶され、嫡子の地位を失ったのは、河野家の長としての素養がなく、相当の暴れ者であったと思われる。しかし武勇は優れ、弘安の役には50代後半の年でありながら、通有と共に蒙古の船に夜討をかけたのであろう。

河野通時の墓が道後義安寺にある。義安寺の山沿いのお墓の一番上に娘の墓と並んでお祀りされている。



このお墓にまつわる伝説がある。『蒙古の軍が攻め寄せてきた時、河野通有の伯父の通時は、一人娘の姫を残して戦に出かけた。しかし、博多湾頭で壮絶な戦死を遂げた。父の還りを今か今かと、待っているときに、通有は通時の遺骨を持ち帰った。悲しみに打ちのめされた

姫は、この義安寺に留まって、亡き父の墓守をして、この寺で一生を閉じた。寺は禅寺であったので、ダルマを作り姫の顔を描き、その供養をしたのが姫ダルマの起源だともいわれている』そしてこのあたりを姫塚という。今もこの地名は残っている。

この伝説もおかしなところがある。義安寺は寺伝によると天文8年(1539)に河野景通の子、河野彦四郎義安が建てたといわれている。通時の時代より250年も後である。おそらく、通時の姫が義安寺のあたりに住んでおり、お墓を立てて供養していたのであろう。その後湯築城ができた。義安寺のお墓に立って、湯築城の方を見ると、湯築城が詳細に見渡せる。義安寺の場所は戦略上出城としての性格を備えていたのだと思う。下を流れる戒能の谷へ敵を誘い込み湯築城と義安寺から攻撃すれば一網打尽である。戦国時代湯築城の防備を固める一環としてこの寺は建てられたように思う。

(四) 石手寺仁王門は通継が建てたのか? 国宝の石手寺仁王門は1318年、河野通継によって建てられたとする伝承があり、すべての資料にそのように書かれているが、久葉先生の資料より通継は1272年頃には死去しており、通有



は1322年ころまで長生きしている。仁王門を立てたのはやはり通有であろう。

石井郷のみの小さな河野家の所領を守り、兄の通時との後継者争いに一生を費やした通継を偲び、通有は、石手寺仁王門を寄進し、「通継が建てた」と、後の世までも名前が残るようにしたのではないだろうか?

今の歴史学上では資料が優先であり、想像は許されない。しかし、矛盾した伝説や資料には真実はこうでないのか? という想像を付け加えるのもいいのではなからうか?

最後に道後ガイドでは、「湯釜薬師」のところで、通有と一遍は従弟と説明していましたが、この系図では従弟半ですね。通有から見ると父親通継が従弟ですね。訂正したいと思いません。

## Nick・Name of the Castle 4

匿名希望：城マニア

### 3. 丸岡城（別名 霞ヶ城）

丸岡城は、福井平野丸岡市街地の東に位置する小高い独立した丘陵に築かれた平山城である。天正4年(1576)織田信長の家臣で、一向一揆制圧後越前ほぼ一帯を領していた柴田勝家(かついえ)の甥である柴田勝豊(かつとよ)により、北の庄城の支城として築城された。丸岡城は五角形の大きな水堀を持ち、変形の虎口空間を備

えるなど、軍学知識に基づく技巧的な縄張を持ったが、現在は天守以外の遺構は、ほとんど失われている。

関ヶ原の合戦後、丸岡城には北庄城主結城秀康(ゆうきひでやす)家臣の今村盛次が2万6千石を与えられ入城した。

慶長17年(1612)、今村盛次は越前騒動に連座し失脚する。幕府より附家老として福井藩に附せられた本多成重(なりしげ)が4万3千石で新たな城主となった。

寛永元年(1624)、福井藩2代藩主の松平忠直が不行跡を理由に豊後配流となり、福井藩に減封などの処分が下された。同時に成重は4万6千3百石に加増され、福井藩から独立した大名として取り立てられ、丸岡藩が成立した。

本多成重は元龜3年(1572)、徳川家康の三河の一大名時代、三河三奉行の1人と称された本多重次(しげつぐ)の嫡男として誕生。幼名は仙千代で、父・重次が天正3年(1575)の長篠の戦いの陣中から妻に宛てた手紙として知られる、「一筆啓上 火の用心 お仙泣かすな 馬肥やせ」のお仙であり、手紙の原文は「一筆申す火の用心 お仙瘦さすな 馬肥やせ かしく」である。

坂井市は、丸岡城天守は日本最古の現存天守として、国宝指定を目指してきたが、国宝指定には築城年を示す正確な史料が必要とされるため、坂井市教育委員会は「丸岡城調査研究委員会」を発足。平成27年度～平成30年度にかけて、天守の柱や梁など主要部材について、年輪、放射性炭素年代測定、酸素同位体比の3つの科学的な年代調査を実施した。その結果、主要な部材は戦国時代ではなく、江戸時代の1620年代後半以降の用材だということが判明。つまり築城は、寛永年間(1624～1644)ということになった。

当時の城主は本多成重であったことから、丸岡藩が寛永元年(1624)に立藩したことを契機として、初代藩主である本多成重の時代に整備された可能性が高いと「丸岡城調査研究委員会」

は平成31年3月、その成果「丸岡城天守学術調査報告書」で結論づけている。

この調査により、「望楼型が古く、層塔型が新しいという城郭史の常識に一石を投じる可能性も生まれた」。(調査研究委員会)

＜「丸岡」の名前の由来は、男大迹皇子(おほどのおうじ)が、坂中井(さかなかい坂井郡)の麻留古乎加(まるこのか)現在の丸岡の地)に住んで居られた時、そのお後の倭媛(やまとひめ)との間に2男2女がおられた。第2皇子が椀子(まねこ)皇子といい、皇子の御胎衣を丸岡城の乎加の南に埋めた所と言い伝えられている。いつしか、この地の麻留は丸、乎加は丘陵の岡、つまり、丸い岡のある地、現在の丸岡の地名になった。また、この皇子の名前から「まるおか」となったという説があります。＞(坂井市丸岡観光協会)

男大迹皇子(おほどのおうじ)＝後に第26代継体天皇(けいたいてんのう)として即位する。西暦507年から531年の24年間在位。継体天皇は聖徳太子の曾祖父に当たる。

「霞ヶ城」の名の由来は合戦時に大蛇が現れて霞を吹き、城を隠したという伝説による。



(坂井市丸岡観光協会公式サイトより)

## 伊予弁ぞなもし I

（出典：「きょうの伊予弁」木藤たかお・清水史）

勝山中学「ふるさと勝山」の連載が終了しました。

替わって、先生の許可を得ましたので、「きょうの伊予弁」抜粋を連載します。

（木藤たかお先生は、愛媛朝日テレビの平日夕方の番組「Jチャンえひめ」金曜日のコメンテーターです。）

### 「なもし」

『一番左の方にいた顔の丸い奴が「そりゃ、イナゴぞな、もし」と生意気におれを遣り込めた。「籠棒め、イナゴもバツタも同じもんだ。第一先生を捕まえてなもした何だ。菜飯は田楽の時より外に食うもんじゃない」とあべこべに遣り込めてやったら「なもしと菜飯は違うぞな、もし」』

小説「坊ちゃん」

「なもし」は、敬語的表現。「なもし」は、実は「な」ということば、「～ぞな」などと使う分の終わりに出てくる「な」に、謙譲語の「申し」がくっついてできたことばなんです。「な+申し」が「なもし」になった。電話のときに、「もしもし」っていうでしょう。あの「もしもし」は「申し」なんです。「もうし」が「もし」と縮まったわけです。文の終わりに出てくることばの「な」、専門的にいうと、文末詞の「な」に謙譲語の「申し」がついてできている複合語なんで

す。相手に対して自分の方がへりくだっていることを表すことばです。

「なもし」を使うという90余歳のおばあちゃんがいて、夫に向かって何かをしゃべるときに、近くにお舅さんがいたりすると「なもし」を使うんですと教えてくれた。

基本的に自分より上位の人と話すときしか「なもし」は使わないんですよ。対等の関係にある人同士の間では本来は「なもし」は出てこない。「なもし」の安売りは困りますね。

### 「よもだ」

「要領を得ない話」「罪のない冗談」という意味です

愛媛県以外では、徳島県でも分布しています。

「よもだ」は、「しらばっくれている人」「そらとぼけた人」と、言動の仕方だけでなく人物の様子についてもいいます。

「よもだ」と同系のことばなんですが、「罪のない冗談を言う者」のことを「よもなく」、「とぼけた人」のことを「よもすけ」とも言ったりし

ます。「よもさく」は山口県や香川県では「鈍い者」「のろま」という意味になります。香川県では、「何をさしてもよもじゃ」と「よも」だけでも使われます。さらに香川県や岡山県では、「ぐずぐずしたさま」を「よも」を重ねて「よもよも」と言ったりもします。

「ふざける」「冗談をする」という意味で、「よもくる」「よもくれる」ということばもあります。「よもくる」は愛媛県全県、愛媛県以外に

は香川県にも分布しています。「よもくれる」は、東中予を中心に愛媛県下にまばらに分布しています。徳島県では「酒に酔って言いがかりをつける」という意味になります。また、徳島県では、「よもくる」の名詞形「よもくれ」が「泥酔して難題を持ち出す者」という意味で使われます。

コラムニストの天野祐吉さんや愛媛県出身の作家の早坂暁さんも、「よもだ」がお好きのようです。「よもだ」ということばには、変にこわば

ったものを笑いに変えてしまう力があるなんておっしゃっていました。

「よもだ」の語源って？

一説には、「前後左右」「あちこち」という意味の「四方（よも）」が語源であると言われていいます。取り立てて大した事のない世間話・雑談のことを「四方山話」なんて言ったりします。「あちこち」行ったり来たりして定まっていないうところから「戯れ言」「冗談」という意味が派生したのかも知れません。

（続く）

## 広報事業部からお願い

部員を募集中です。

老若男女・経験不問です。

また、原稿についても奮ってのご応募をお願いいたします。

## 連絡先

都合憲一 TEL.090-4501-3372

メルアド 723nananami@gmail.com

上松君乃 TEL.090-1572-8480

メルアド uematsu@mg.pikara.ne.jp

## 編集後記

7月は休刊しましたが、ガイドの再開に合わせて発刊します。「ウイズコロナ」の時代をどう生きていくのか、問われています。繊細かつ大胆に生きていきたいと思います。

TK

ガイド再開にともなうホームページ作業を行いました。そんな中で松山城クイズの結果を送付し、お客様からお礼コメントが届きました。本当に嬉しいです。さあご案内が始動します。

UK

「陽炎や苔にもならぬ玉の石」 正岡子規